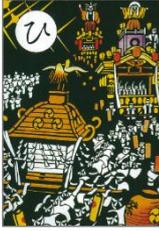
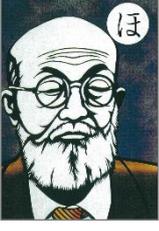


読み札	絵札	解説
<p>は 林柳波の おうまの おやこ</p>		<p>「おうまの親子は仲よしこよし」 童謡「おうま」の一節。作詞者林柳波は明治25年(1892)材木町に生まれた。本名は照壽、沼田尋常小学校高等科卒業の後、明治薬学校(現明治薬科大学)を卒業し薬剤師となった。恩田重信校長に推され講師に就任。母校の経営に参画する傍ら詩歌・童謡の世界にも才能を発揮、「七夕」「ウミ」「うぐいす」等の作品を残した。市内の校歌も数多く作詞した。昭和49年(1974)、83歳で亡くなった。平成元年(1989)沼田市名誉市民として顕彰された。</p>
<p>ひ 人の波 みこしまんどう 沼田まつり</p>		<p>古くは、「おぎょん」といわれ、8月3、4、5日がまつりの日である。山車が出始めたのは明治10年代と推定される。これを「まんどう」と呼ぶのも独特であり、かつては付け祭といわれ、須賀神社・榛名神社の御輿の渡御に奉仕した。今は、「沼田まつり」として一体の行事となり、女性だけが担ぐ天狗みこし・各町の子供みこし・夜の通りを埋める千人踊りなど多彩な興 趣を添えている。</p>
<p>ふ 禅と天狗の 仏法僧 迦葉山</p>		<p>迦葉山龍華院弥勒寺は嘉祥元年(848)慈覚大師の開山という。後に康正2年(1456)天台宗から曹洞宗に改宗した。寺は深山霊気、うっそうとした樹林、仏法僧が鳴く霊峰迦葉山の中腹にある。参籠の際は、きびしい戒律のもと座禅行をする。天狗信仰の寺であり、五穀豊穰、商売繁盛、家内安全、交通安全等を祈願し、その際天狗面を借り、翌年参道の茶店で買った面と一緒に返すという習わしがある。大天狗面が奉納されている。</p>
<p>へ 平八郎は 悲運の武将</p>		<p>沼田城を築いた沼田万鬼斎顕泰の末子平八郎は、沼田氏の内紛により会津に父子共に身を寄せた。のちに勢多郡に住み、沼田城奪回を目指して兵を挙げ赤城山を越えた。旧臣が集まり一気に攻めようとしたとき、真田昌幸の謀略により伯父金子美濃守が裏切ったため、天正9年(1581)3月15日、沼田城の水の手曲輪の露と消え、ここに沼田氏は断絶した。町田の小沢城跡に葬られた。</p>
<p>ほ 細谷浅松 初代の市長</p>		<p>細谷浅松は明治18年(1885)柳町に生まれ、大正12年(1923)38才で沼田町長となり、同14年(1925)上水道を完成した。昭和26年(1951)再び町長となり、同29年(1954)沼田市誕生に伴い初代市長となった。沼田百年の計を立てて水源を確保し、水道事業を発展させた功績は永く輝いている。昭和33年(1958)5月市長を退任し、同45年(1970)85歳で亡くなった。平成元年(1989)沼田市名誉市民に顕彰された。</p>